

令和8年度

病虫害発生予察情報

第 11 号

注意報第3号

北海道病虫害防除所 令和8年(2026年)8月3日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

水稻の斑点米カメムシ類が多発 発生モニタリングにつとめ、適切に追加防除を実施しよう。

アカヒゲホソミドリカスミカメ（以下、アカヒゲ）及びアカスジカスミカメ（以下、アカスジ）は、斑点米発生の主要原因となるカメムシです。このうち、アカヒゲは水稻の出穂以降に第2回成虫が畦畔や雑草地から水田内へ侵入します。その後、この成虫やそれに続く第3回幼虫・成虫が籾から吸汁加害して斑点米を発生させます。

本年の予察灯による斑点米カメムシ類の成虫の誘殺数は、7月以降、北斗市で急激に増加し、平年を上回っています。予察田におけるアカヒゲのすくい取り捕獲数は、出穂期を迎えた7月下旬以降も北斗市では依然として多く、長沼町と比布町でも捕獲が認められています。予察田内に設置したアカヒゲのフェロモントラップによる捕獲数も比布町及び北斗市で平年より多く推移しています。また、巡回調査によると、一般田の畦畔における斑点米カメムシ類の発生は全道各地で確認されており、捕獲数が多い地域も認められます。さらに、7月30日付け札幌管区气象台発表の1か月予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量はやや少ないと予報されています。斑点米カメムシ類の成虫は、高温や少雨が続きと水田への侵入活動及び籾への加害活動が活発になります。そのようなときには水田内における幼虫の発生も多くなり、より被害が大きくなる恐れがあります。

以上のことから、基幹防除の実施以降も水田内のすくい取りによる発生モニタリングにつとめ、適切な茎葉散布による追加防除を実施してください。

1. 発生地域 全道

2. 発生量 多

3. 注意報発令の根拠

- (1) 予察灯による斑点米カメムシ類の成虫の誘殺数は、北斗市で平年より多く推移している（表1、2）。
- (2) 予察田におけるすくい取りによるアカヒゲ成虫の捕獲数は、北斗市で平年より多く推移している（表3）。
- (3) 予察田内に設置したアカヒゲのフェロモントラップによる第2回成虫の捕獲数は、比布町及び北斗市で平年より多く推移している（表4）。
- (4) 一般田における7月3半旬の巡回調査では、畦畔すくい取りにより斑点米カメムシ類が全71地点中、空知、石狩、後志、胆振、日高、檜山、上川、留萌地方の計30地点で確認されており、捕獲数が多い地域も認められている。
- (5) 7月30日付け札幌管区气象台発表の1か月予報によると、向こう1ヶ月の気温は高く、降水量はやや少ないと予報されていることから、水田内への侵入及び加害活動は今後も引き続き活発であると予想される。

4. 防除対策

- (1) 基幹防除に引き続き、以下のとおりアカヒゲの発生モニタリングを行い、追加防除の要否を判断する。
- ①基幹防除に茎葉散布を実施した場合には、2回目散布の5～7日後に水田内のすくい取りを行う。20回振りあたりの捕獲頭数が「きたくりん」、「吟風」では3頭、「ゆめぴりか」では2頭、「ななつぼし」では1頭に達した場合に追加防除を実施する。その後も、上記水準を下回るまで、7～10日間隔で同様の調査とその結果に基づいた追加防除を継続する。
 - ②ジノテフラン液剤、エチプロール水和剤F、スルホキサフロル水和剤F、フルピリミン剤を使用し、基幹防除を出穂期7～10日後の1回散布とした場合も、散布の5～7日後に水田内のすくい取りを行い、上記に準じて追加防除を実施する。
 - ③基幹防除に水面施用を実施した場合には、出穂3週目にすくい取り調査を実施し、上記に準じて追加防除を実施する。
- (2) 加害期間は水稻の黄熟期までであり、その後の防除は不要である。

表1 予察灯によるアカヒゲ成虫の誘殺頭数

月・半旬	長沼町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	2	11.3	51	37.8
2半旬	58	86.1	701	102.4
3半旬	402	214.3	341	54.9
4半旬	415	736.9	263	201.1
5半旬	562	854.0	399	243.3
平年数	10		10	

表2 予察灯によるアカスジ成虫の誘殺頭数

月・半旬	北斗市	
	本年	平年
7月1半旬	8	7.7
2半旬	87	15.7
3半旬	22	12.5
4半旬	20	13.8
5半旬	50	30.0
平年数	10	

表3 水田すくい取りによるアカヒゲ成虫の捕獲頭数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
7月1半旬	0	0.3	0	0.0	0	1.3
2半旬	0	0.5	0	0.0	0	0.5
3半旬	0	0.3	0	1.0	2.5	0.8
4半旬	5.0	2.6	0	7.0	5.0	0.3
5半旬	2.5	8.1	2.5	4.0	7.5	2.0
6半旬	5.0	5.3	2.5	2.5	7.5	3.7
平年数	10		10		10	

表4 水田フェロモントラップによるアカヒゲ雄成虫の誘殺頭数

月・半旬	長沼町		比布町		北斗市	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
6月1半旬	0	0.1	3	0.0	0	0.0
2半旬	0	0.5	0	0.0	0	0.0
3半旬	0	0.4	1	0.3	0	0.2
4半旬	0	2.2	2	0.8	5.0	1.8
5半旬	0	0.4	0	0.6	7.0	4.6
6半旬	0	0.4	1	1.2	13.0	4.4
7月1半旬	0	0.5	3	0.5	6.0	5.2
2半旬	1.0	1.5	7	1.5	14.0	4.2
3半旬	3.7	2.9	36	3.8	29.0	6.5
4半旬	4.0	3.9	18	6.3	24.0	5.0
5半旬	0.8	6.7	24	15.5	8.3	10.6
平年数	10		10		10	